

平成 21 年度顎顔面診断科学講座 病理学分野

代表者：槻木恵一

1. 教員・大学院生・他

教授：槻木恵一

講師：佐藤一芳，窪田展久（付属病院臨床教授），三好代志子

大学院生：近藤裕介（2年生）・椎木直人（3年生）

名誉教授：久田太郎，渡辺是久

客員教授：津浦幸夫

非常勤講師：三木慎一郎，酒井康友，三田村治郎，堀真由美，古川協，安田政実，

駒津栄雄，山田好江，森 裕介 金安拓朗，小野澤直子

事務員：佐藤優子，鈴木由美子

2. 平成 21 年度の活動内容

教育：病理学の基本的概念の系統的理解と応用力の養成を主眼とした教育を行った。特に本年度もポートフォリオ作成帳を作成配布しポートフォリオを実践した。また成績不良者のためのチューター制による学習支援も行った。また、本年よりチーム基盤型学習（TBL）を実習の一部に導入し本格導入に向けて検討を行った。その他 1 年生歯学概論，4 年生総合歯科学 I，6 年生総合歯科学 II の講義を分担した。さらに、本年度も 2 年生歯科医療体験実習の科目担当責任者として本学独自のユニークな科目づくりを実践した。湘南短期大学歯科衛生学科においては、病理学および臨床検査学の科目担当責任者として積極的に歯科衛生士教育に協力した。さらに、看護学科でも病理学教育に協力した。大学院教育では国際的に通用する研究テーマに取り組みせることにより質の高い歯科医学研究者の養成を目指すとともに、病理診断を通じて全身疾患への理解を伴う口腔科医の養成を目指した教育を行った。

研究：本分野は従来、唾液腺に関する研究を進めてきており、特に 3 つのテーマによる研究を進めた。1) 唾液を用いた検査法の確立，2) ストレス応答性唾液腺産生物質の病変発症抑制作用の検討，3) 唾液腺悪性腫瘍における標的治療の検討。1) に関しては文部科学省科学研究費補助金萌芽研究、2) については基盤研究 B の交付を受けた。また、3) に関してはハイテクリサーチセンター事業において分子病理研究室を担当し、学内の癌研究における病理学的研究支援を行った。

臨床：付属病院病理診断科への支援協力を行った。

社会活動：全国の医学部付属病院病理部，病院病理部，他院歯科口腔外科より診断に難渋した口腔病変のコンサルテーションを積極的に受け入れた。また、本年度発足した横須賀病理医会の運営に積極的に協力し地域の病理診断を側面から支援した。

3. 研究業績

【著書】

槻木恵一：4章 象牙質とセメント質の増生および吸収. pp. 57 - 64. / 槻木恵一、猿田樹里：9章 口腔疾患の治療に伴う病理学的変化. pp. 123 - 125. pp133 - 138. / 槻木恵一：10章 口腔粘膜の疾患. pp139 - 158. / 槻木恵一、三田村治郎：17章 口腔の加齢変化. pp269 - 272. / 窪田展久：18章 口腔の病理診断. pp273 - 280. 賀来亨、槻木恵一編：スタンダード口腔病態病理学. 初版、株式会社学建書院、東京、2009.

槻木恵一：第10章感染症 pp89 - 100. / 槻木恵一：第11章寄生虫感染症 pp101 - 104. 亀山洋一郎、前田初彦編著：病理学概論. 初版、株式会社永松書店、京都、2009

【原著論文】

小野崎純, 佐藤貞雄, 槻木恵一：接合上皮の深部増殖におけるマトリクスメタロプロテアーゼの関与について—三次元培養を用いた検討—. 日本歯周病学会会誌, 第51巻第2号, 153-161, 2009.

Sugiyama T, Jinbu Y, Obi Y, Kusama M, Demitsu T and Tsukinoki K : Mast Cell Distribution and TLR Expression in Rat Tongue Epithelia. The Bulletin of Kanagawa Dental College, Vol. 37, No. 2, PP. 101-103, 2009.

Ozawa S, Kate Y, Ito S, Komori R, Shiiki N, Tsukinoki K, Ozono S, Maehata Y, Taguchi T, Imagawa-Ishiguro Y, Tsukuda M, Kubota E, Hata R: : Restoration of BRAK / CXCL14 gene expression by gefitinib is associated with antitumor efficacy of the drug in head and neck squamous cell carcinoma. Cancer Science. 100(11):2202-9 November 2009.

Kim Y, Hamada N, Takahashi Y, Sasaguri K, Tsukinoki K, Onozuka M, Sato S : Cervical sympathectomy causes alveolar bone loss in an experimental rat model. Journal Periodontal Research. 44(6):695-703 December 2009.

Juri Saruta, Taeki Lee, Masayoshi Shirasu, Takeshi Takahashi, Chikatoshi Sato, Sadao Sato, Keiichi Tsukinoki: Chronic stress affects the expression of BDNF in rat submandibular glands. Stress 13(1): 53-60, 2010

Jun Onozaki, Keiichi Tsukinoki, Juri Saruta, Sadao Sato, Jerry R. McGhee, Hiroshi Kiyono, Kohtaro Fujihashi, Firoz Rahemtulla: Detection of salivary peroxidase specific mRNA expression in healthy parotid gland by *in situ* hybridization. The Bulletin of Kanagawa Dental College 37(2): 89-93, 2009.

Juri Saruta, Yusuke Kondo, Chikatoshi Sato, Naoto Shiiki, Keiichi Tsukinoki, Sadao Sato: Salivary glands as the source of plasma BDNF in stressed rats engaged in biting behavior. Stress 13(3): 238-247, 2010.

Noguchi T, Tsuchiya Y, Itoh H, Matsumoto K, Osano H, Jinbu Y, Fujita A, Tsukinoki K, Sato T, Kusama M :Limitations of Fluoro-2-deoxy-D-glucose-Position Emission Tomography for Metastatic Neck Disease Secondary to Oral Squamous Cell Carcinoma. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons 21:10-17, 2009.

【総説】

なし

【症例報告】

山下雅子、神部芳則、草間幹夫、槻木恵一：歯肉・歯槽粘膜境界部に生じた停滞型粘液嚢胞の1例：日本口腔粘膜学会雑誌 第15巻 第2号 別刷：77-80, 2009, 12月

山下雅子、神部芳則、高橋淳、草間幹夫、槻木恵一：下唇に生じた開口部形質細胞症の1例：日本口腔診断学会雑誌 第23巻 第1号 別刷 159-162, 2010, 3月

鹿志村圭、神部芳則、池田薫、山下雅子、篠崎泰久、草間幹夫、槻木恵一：リンパ上皮性嚢胞の発生との関連が示唆された舌縁部の腫瘍性病変の1例：日本口腔診断学会雑誌 第23巻 第1号 別刷71 - 74、2010、3月

佐藤武則、窪田展久、櫻井孝、大見寧、大澤孝行、久保田英朗、鹿島勇、槻木恵一：口蓋部に発生したLipomatous pleomorphic adenomaの1例. 神奈川歯学、43-2、129~132、2008.

Jinbu Y, Ueno Y, Obi Y, Ikeda K, Kusama M, Tsukinoki K: Peripheral keratocystic odontogenic tumour: a case report. Oral Surgery 2009;2:95-98

【プロシーディング】

Saruta J, Sato Ch, Sasaguri K, Sato S, Shiiki N, Kondo Y, Tsukinoki K : Basic studies about development of metabolic syndrome diagnostic method to using saliva. Bull Kanagawa Dent. Col. 37、141 - 143、2009.

【その他】

4 その他の業績・活動

【学会発表】

〔シンポジウム〕

オーガナイザー: 槻木恵一. 「唾液を用いたストレス評価の基礎と臨床」. 第22回日本口腔診断学会 横須賀, 6.5 2009.

〔一般発表・国際学会〕

Saruta J, Sato C, Kondo Y, Shiiki N, Sasaguri K, Tsukinoki K, Sato S: Basic studies about development of metabolic syndrome diagnostic method to using saliva. Iaaid-Asia 3rd, 3.20-21, 2010. Kyoto, Japan.

〔一般発表・国内学会〕

佐藤允俊, 猿田樹理, 笹栗健一, 槻木恵一, 佐藤貞雄: 咀嚼器官活性化によるストレス緩和についての研究 第131回 神奈川歯科大学学会例会, 横須賀, 2010.1.14

猿田樹理, 佐藤允俊, 近藤裕介, 笹栗健一, 槻木恵一, 佐藤貞雄: 急性拘束ストレスモデルはラット副腎のTrkB発現に影響を与える 第68回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2009.11.16-18.

近藤裕介, 猿田樹理, 佐藤貞雄, 槻木恵一: 唾液腺BDNFの病態生理学的意義についての研究—第7報: ストレス性病変におけるBDNFの役割 第130回 神奈川歯科大学学会例会, 横須賀, 2009.10.15

猿田樹理, 近藤裕介, 笹栗健一, 槻木恵一, 佐藤貞雄: ヒト唾液腺におけるBDNF発現と局在 第51回日本歯科基礎医学会総会・学術集会, 新潟, 2009.9.10-11

猿田樹理, 近藤裕介, 槻木恵一: 慢性拘束ストレスはラット唾液腺において神経栄養因子の発現に影響を与える 第20回日本臨床口腔病理学会総会・学術集会, 札幌, 2009.7.30-31

槻木恵一, 佐藤一芳, 窪田展久, 三好代志子, 猿田樹理, 近藤裕介: 刺激性線維種における発生由来についての免疫組織学的検討 第20回日本臨床口腔病理学会総会・学術集会, 札幌, 2009.7.30-31

近藤裕介, 猿田樹理, 佐藤貞雄, 槻木恵一: ヒト唾液腺および唾液におけるBDNF発現 第

20回日本臨床口腔病理学会総会・学術集会，札幌，2009.7.30-31

猿田樹理，近藤裕介，佐藤貞雄，槻木恵一：噛むことはラット唾液腺においてストレスで誘導されたBDNFを増加させる 第63回日本口腔科学会学術集会，浜松，2009.4.15-17

近藤裕介，猿田樹理，椎木直人，佐藤貞雄，槻木恵一：ヒト唾液腺におけるBDNF発現と局在 第63回日本口腔科学会学術集会，浜松，2009.4.15-17

【業務活動報告】

〔科学研究費補助金〕

槻木恵一（研究代表）：ストレス性唾液腺蛋白の網羅的プロテオーム解析と唾液を用いたストレス度診断法の開発．萌芽研究，19659484，平成19年度—平成21年度．

槻木恵一（研究代表）：唾液腺由来BDNFのストレス性病変抑制メカニズムについての研究．基盤研究B，20390467，平成20年度—平成22年度．

槻木恵一（代表）：唾液のスーパーな威力をみよう．ひらめき☆ときめきサイエンス，HT21087，平成21年度．

〔教材〕

病理学分野：ポートフォリオ作成帳．サガラ印刷．2009.4.

〔活動〕

第4回横須賀病理医会例会、世話人槻木恵一、平成21年7月7日、神奈川歯科大学第1研究棟3F研修室。

第5回横須賀病理医会例会、世話人槻木恵一、平成21年12月18日、神奈川歯科大学第1研究棟3F研修室。

〔講演〕

槻木恵一：口腔癌の基礎知識．川崎市麻生区歯科医師会．平成21年9月15日

槻木恵一：病は口から．長野県上田小県歯科医師会市民講演会．平成21年11月15日．

槻木恵一：神奈川歯科大学における教育の現状．神奈川歯科大学同窓会宮崎県支部．平成21年8月8日．

〔賞〕

佐藤一芳・槻木恵一：唾液によるメタボリックシンドローム診断法の開発．平成21年度 神奈川歯科大学学会 堀 研究奨励賞．

近藤裕介:唾液腺 BDNF の病態生理学的意義についての研究—第 7 報: ストレス性病変における BDNF の役割. 平成 21 年度 神奈川歯科大学学会. Young investigator award.